



JAありだ

# JAありだ自己改革工程表

JAありだは、平成29年より、組合員との徹底した対話に基づいて、「農業所得の向上」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする創造的自己改革の実践に全力で取り組んできました。

これまでに自己改革として、柑橘類の一元集荷販売に取り組んだほか、JA独自の営農助成、肥料銘柄集約によるコスト削減などの取り組みをすすめてきました。

この結果、平成30年に実施した「JAの自己改革に関する組合員調査」等において、多くの正組合員から、一定の評価と自己改革への一層の期待、多くの准組合員から、総合事業の必要性や地域農業を応援したいとの声をいただくことができました。

令和4年度からは、組合員との対話に基づく自己改革実践サイクルの取り組みを開始し、農業所得の向上に向けて、ゆら早生増産計画に伴う助成金の支出やAQ選果場における温州みかんの予約相対取引による高品質商材の増量等に取り組むほか、JA経営基盤強化や組合員との対話・意思反映の取り組みもすすめることで、不断の自己改革によるさらなる進化を目指しています。

今後とも、JAありだは、地域になくしてはならないJAであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでまいります。

## ▶自己改革を実践するための具体的な方針(下線部分はKPI\*設定項目)

- 1 訪問活動や座談会を通じた「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握します。
- 2 「農業者の売上増加・コスト低減」につながる担い手目線で必要な取り組みについて、目標及び実践具体策の策定等とあわせて実践し、改革の目的である「農業所得の向上」を実現するほか、「地域の活性化」にも取り組みます。
  - 担い手経営体や中核的担い手などを対象として、次のことに取り組めます。
    - ア. ゆら早生増産計画に伴う助成金の支出
    - AQ選果場の部会員を対象として、次のことに取り組めます。
      - ア. 予約相対取引による高品質商材の増量
      - 組合員、利用者等を対象として、次のことに取り組めます。
        - ア. ファーマーズマーケット「ありだっこ」の集客力強化
        - イ. 農薬奨励金と価格対策によるコスト低減
        - ウ. レンタルチップパー（樹木粉碎機）の普及拡大によるコスト削減
- 3 改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることで、PDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

\*「KPI」とは目標を達成する上で、その達成度合いを見るために数字で表した重要な指標

## ▶自己改革の実践に向けた組合員の意思反映

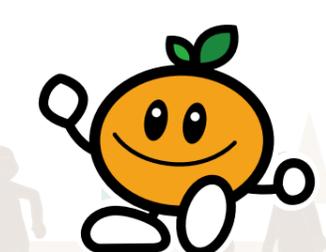
自己改革の実践にあたっては、改革の評価の把握に向けた正組合員との対話や集落座談会のみならず、地域に根ざしたJAを目指して組合員訪問活動や、准組合員懇談会（令和5年度実施予定）を通じて「正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員」である准組合員の声も聴くことで、正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現します。

また、農業振興の応援団でもある准組合員の事業利用にあたっては、正・准組合員の利用状況を把握したうえで、改革の基本目標である「農業所得の向上」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現につながるよう取り組みます。

## ▶自己改革を支える経営基盤の確立・強化の取り組みについて

管内の人口動向は減少傾向にあり、少子高齢化が進展しています。また、農業生産額は上昇傾向に推移しており、JAありだの販売品販売高は、100億円前後で推移している状況です。

こうした情勢のなか、JAありだとして事業改革を進めなかった場合の5年後の成行きについてシミュレーションを行ったところ、令和6年度には平成11年の広域合併以来初めて事業利益が赤字に転じる見通しとなりました。これは、信用・共済事業の収益で営農経済事業を補う総合農協特有の収益構造が超低金利下における信用事業の利ざや縮小等により崩れてきたことによるものです。今後は、各部門において効率的な運営を通じた費用削減や、適正な手数料への見直し検討等により、健全で持続性のある経営の確保に取り組めます。



# JAありだ自己改革工程表(数値編)

## 農業所得の向上・農業生産の拡大

▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>ゆら早生増産計画に伴う助成金の支出</b>		令和4年度		令和5年度	令和6年度
対象者: 担い手経営体や中核的担い手など		目標	実績	目標	目標
想定 <b>売上増加効果</b>		7,500本	15,758本 (210.1%)	8,000本	10,000本 (修正前 9,000本)
令和4年度取組結果について					
市場評価の高い「ゆら早生」の増産に取り組むことを目的とし、農家負担軽減策として239人15,758本に対し@420円程度の助成を行いました。					
令和6年度	10,000本 (修正前 9,000本)	1本あたり 上限500円助成			

▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>予約相対取引による高品質商材の増量</b>		令和4年度		令和5年度	令和6年度
対象者: AQ選果場の部会員		目標	実績	目標	目標
想定 <b>売上増加効果</b>		1,200t	1,844t (153.7%)	1,500t (修正前 1,350t)	2,200t (修正前 1,500t)
令和4年度取組結果について					
糖度アップ商材の出荷量は、1,844tです。高品質商材合計で2億8,582万円の売上げ増加につながりました。					
令和6年度	2,200t (修正前 1,500t)	1Kgあたり 通常品 +150円			

▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>ファーマーズマーケット「ありだっこ」の集客力強化</b>		令和4年度		令和5年度	令和6年度
対象者: 組合員・利用者等		目標	実績	目標	目標
想定 <b>売上増加効果</b>		260,000人	251,982人 (96.9%)	265,000人	270,000人
令和4年度取組結果について					
野菜の収穫体験や公式LINEを新設し、「周年祭」等のイベント開催など、集客力の強化に取り組みましたが、コロナ禍での非対面チャネルが優先され、インターネット販売や来店者1人あたりの購入単価は増加したものの、来店者数は増やせませんでした。					
令和6年度	270,000人	来店者1名あたりの 購入単価 2,200円			

▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>農業奨励金と価格対策によるコスト低減</b>		令和4年度		令和5年度	令和6年度
対象者: 組合員		目標	実績	目標	目標
想定 <b>コスト低減効果</b>		1億85百万円	2億11百万円 (114%)	1億99百万円 (修正前 1億85百万円)	1億86百万円
令和4年度取組結果について					
農業奨励金、市況対策金、マンゼブ剤や大型規格容器除草剤等の供給価格対策および、農業価格高騰対策として主要38品目に令和5年農業価格での価格対策を行いました。					
令和6年度	1億86百万円				

▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>レンタルチッパー(樹木粉碎機)の普及拡大によるコスト削減</b>		令和4年度		令和5年度	令和6年度
対象者: 組合員		目標	実績	目標	目標
想定 <b>コスト低減効果</b>		120日	131日 (109.2%)	130日	130日
令和4年度取組結果について					
令和5年2月に1機増設し、営農センター間でのレンタル状況の情報共有など繁忙期の稼働率向上に取り組みました。また、YouTube(ユーチューブ)などでレンタルチッパー活用のPRを行いました。					
令和6年度	130日	チッパーレンタル料金価格差 1日あたり▲8,140円			

## 経営基盤の確立・強化

▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>販売品販売高の拡大</b>		令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	令和6年度目標
令和6年度 直営選果場等組織の再編			現在の直営選果場組織の再編に向けた課題等について検討協議。また、「ありだ共選」の直営化について組織決定	新たな直営選果場等組織のあり方や方針等について協議決定(追加)	販売高20億円増加
▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>事業縮小による収支の改善</b>		令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	令和6年度目標
令和4年度 介護事業の一部廃止 令和5年度 および清水給油所の廃止		介護事業の一部廃止	○令和4年7月末本所介護事業の廃止 ○地区総代懇談会、総代会で自己改革行程表等を提案	清水給油所の廃止	
▼重点目標		▼成果指標・目標値			
<b>ATM配置の合理化による経費削減</b>		令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	令和6年度目標
令和4年度 令和5年度 ATMの配置見直し		○吉備支所旧御霊店のキャッシュコーナーを廃止(令和5年度吉備支所へ移設) ○金屋支所旧東部店のキャッシュコーナーを廃止(令和5年度金屋支所へ移設)	○吉備支所旧御霊店のキャッシュコーナーを廃止 ○金屋支所旧東部店のキャッシュコーナーを廃止	○箕島支所旧港町店のキャッシュコーナーを廃止 ○広川支所旧旧店のキャッシュコーナーを廃止	

## 対話・意思反映

▼重点目標		▼成果指標・目標値		
項目	令和4年度計画	令和4年度実績	令和5年度計画	
営農経済渉外による正組合員訪問(人数)	10,800人	訪問11,158回(面談9,729回)の訪問を行い有益な情報提供など組合員の営農と生活に役立つ活動に取り組みました。	10,800人	
地区総代懇談会(正組合員)(回数、出席人数)	6箇所 (令和4年度上期・下期各1回) 514名 (令和3年度末総代数)	6箇所 上期(170名出席)・下期(135名出席)各1回開催し、ご意見・ご要望等について可能な限り意思反映に努めました。	6箇所 (令和5年度上期・下期各1回) 512名 (令和4年度末総代数)	
組合員訪問活動(正組合員・准組合員)	12回 管内組合員全世帯 (13,145世帯)	12回、管内組合員世帯を訪問し、あいさつや日常会話等を中心にコミュニケーションをはかりました。 (12,173世帯(地区外等を除く実世帯数))	12回、管内組合員全世帯 令和6年3月末 12,200世帯 (地区外等を除く実世帯数)	
女性会との対話	1回、10名 (女性会役員)	令和5年3月9日対話集会(女性会役員9名、常勤役員6名)を開催しました。JA運営について女性の視点から意見や要望があり、有意義な意見交換となりました。	令和6年3月開催予定	
青年部をはじめとした組合員組織代表者等との対話	各営農センター 単位で開催	青年部代表者等との懇談会(8月5日開催、6人)、組織代表者等との懇談会(9月5~8日開催、37人)を開催しました。対話集会で出された、意見・要望事項については可能な限り対応しました。	参加対象者やテーマ毎の意見交換など、開催要領を検討し、7月8日に対話集会の開催を予定	
准組合員の意思反映の取り組み	令和5年度実施に向け取組施策の検討	JAありだ准組合員懇談会要領を制定し、具体的取組施策を検討しました。	JAありだ准組合員懇談会の開催による、准組合員の意思反映への取り組み	